

# 厚岸町海事記念館



## 通信

2007.10.

No. 6

### 厚岸の貴重な歴史資料が旅に出ました

この夏、私たちの住む厚岸町に関係する資料が展示のため、西は札幌の北海道開拓記念館へ、東は根室市の歴史と自然の資料館へと資料貸出の旅に出ました。

西へ向かったのは、国泰寺に所蔵され、国の重要文化財にも指定されている「蝦夷三官寺関係資料」の一つ「六代日鑑記六」や町内在住の池田家に伝来する天保15年(1844)に厚岸沖に来航したフランスの捕鯨船員の図、は大洋漁業株式会社厚岸事業所の写真(昭和28年頃)などです。現在、北海道開拓記念館では、「第63回特別展 鯨」と題して展示会が開催されています(開催期間:7月20日~10月8日)。今回、展示された「六代日鑑記六」には、先ほどの池田家伝来の図と同様に天保15年にフランスの捕鯨船が厚岸沖に現れたことが記録されています。また、厚岸には昭和の初めに捕鯨場が建設され、北海道でも屈指の捕鯨基地として名を馳せた歴史があります。特別展開催に伴い、北海道開拓記念館で展示された写真は、現在、町内在住で、戦後、捕鯨を行っていたは大洋漁業株式会社厚岸事業所で働いていた人が所有しているもので、当時を知る貴重な資料として展示されることになりました。

一方、その反対側、東へと向かったのは、こちらも池田家が所蔵している町指定有形文化財「蝦夷錦」です。この夏、根室市では、根室市総合文化会館を会場に市制五〇周年を記念して企画展「根室のアイヌ文化 根室の自然」が開催され(開催期間:8月1日~4日)、池田家所蔵の「蝦夷錦」が展示されました。「蝦夷錦」は、江戸時代、ユーラシア大陸東部(特に間宮海峡周辺)のアムール川下流域の人々(当時、山丹人と呼ばれました)と樺太アイヌや松前藩、そして幕府との間で行われた交易(山丹交易)によってもたらされた絹織物のことです。現在、池田家には四点の「蝦夷錦」が伝えられ、道東地方において唯一の現存資料として大変貴重なものとされています。江戸時代後期に松前藩の家老であり絵師でもあった蠣崎波響によって描かれた「夷酋列像」(寛政元年(1789)クナシリ・メナシアイヌの戦いにおいて松前藩に協力したアイヌ民族12人の肖像画)には根室のノッカマップの乙名(アイヌの長)であるシヨニコという人物が描かれています。この人物も「蝦夷錦」と思われる布を身にまとい、アイヌ民族の文化と関わりの深い資料として池田家に伝来されてきた「蝦夷錦」が展示されました。



特別展「鯨」展示風景



「根室のアイヌ文化 根室の自然」展示風景

## 文化財係 アッケシソウ栽培記

今年もアッケシソウが赤く色づく季節になってきました。去年は、新たに港町にアッケシソウの栽培地を造成し、秋には見事に赤く色づきました。そして、今年はさらに面積を広げ、昨年の四倍としました。文化財係では、この一年、栽培地すべてが赤く色づけば見応えのあるものになるだろうと期待し海水散布から雑草取りと頑張ってきました。ところが、ここに来て問題が発生しました。なんと、去年栽培した区画が全く成長しないのです。もちろん、海水もまいたのですが改善しませんでした。いくつかの理由が考えられるのですが、おそらく去年のアッケシソウの種が落ちすぎて、アッケシソウが過密状態になったのではないかと思われます。というのも、4月末から5月上旬にかけて発芽はしたのですが、土壌が見えないくらい密集している箇所もあり、その後は、数cm伸びた段階でそれ以上は成長せず、夏頃から赤く変色してしまいました。アッケシソウは塩生植物で、厚岸湖岸のような塩湿地の波打ち際などに生育しています。自生しているアッケシソウの場合、秋に種が地面に落ちた場合、打ち寄せる波などにより適度に流出し、密集度は低くなると考えられます。それにひきかえ、港町の場合、落ちた種がほとんど同じ場所に留まり、一斉に発芽してしまいます。ここに、成長できるか否かの差が出たのではないのでしょうか。今後は、これらの点についても注意し、アッケシソウの栽培を続けていきたいと思えます。

何はともあれ、今年新たに広げた部分は、何とか順調に成長してくれ、色も赤くなってきました。“百聞は一見に如かず”。去年の栽培地と今年の栽培地、どう違うか実際に港町に足を運んでみてはいかがでしょうか。本当に自然のものを育てるとは難しいものです。



港町のアッケシソウ栽培地(9月18日撮影)

### 【お知らせ】 文化の日に海事記念館などを無料開放します !!

11月3日(金)「文化の日」は、海事記念館、郷土館、太田屯田開拓記念館の3館を無料開放します。この機会に厚岸の歴史に触れてみませんか。

また、海事記念館では、通常通りプラネタリウムを投影いたします(投影時間11:00~、13:30~、15:30~)。こちらも無料で観賞できますので、ぜひご覧下さい。

## 文化財係 厚岸かぐらを見にいこう！！

みなさんもご存知のように、厚岸町には厚岸かぐらという町の無形文化財にも指定されている民俗芸能が伝承されています。そして、この踊りをなんとか後世に伝えようと頑張っているのが厚岸かぐら同好会のみなさん(会長、平下弘さん)です。現在、会員数は15名で決して多くはありませんが、糸魚沢神社の例大祭やあつけし牡蠣まつりなど各種催し物などに精力的に参加しています。また、この厚岸かぐらの伝承校でもあった町立糸魚沢小学校が休校した後、新たに伝承校となった町立真龍小学校において厚岸かぐら少年団を立ち上げ、後継者の育成にも努力しています。今後の活動は、厚岸町社会福祉センターを会場に、11月11日(日)の「町障害者(児)ふれあいフェスティバルこう福祉21」と11月25日(日)の「厚岸町民文化祭」において厚岸かぐらを披露する予定です。

ぜひ、私たちの郷土の歴史でもある厚岸かぐらをご覧いただき、同好会の活動を応援していただければと思います。また、同好会のみなさんと一緒に厚岸かぐらを踊ってみたいという方は海事記念館文化財係までご連絡下さい。



厚岸かぐら少年団の練習風景



平成18年度町民文化祭において

### 郷土館・太田屯田開拓記念館 **休館**のお知らせ

郷土館・太田屯田開拓記念館は、11月16日(金)から翌年の4月15日(火)までの冬期間、休館となります。その間のお問い合わせなどは、海事記念館までお願いいたします。

### 秋の星空を観察しよう

海事記念館では、次の日程で「秋の星空教室」を開催します。当日は、釧路市こども遊学館から移動天文車「カシオペヤ号」がやって来ます(事前申し込み制・参加料無料)。

日 時: 10月17日(水)午後7:00から7:45まで

(悪天候の場合、翌18日(木)に順延します)

場 所: 厚岸町立厚静小学校

参加対象: 小学生以上

(小学生、中学生については保護者の片、同伴でご参加下さい。)

申し込み締め切り: 10月14日(日)

申し込み・問い合わせ先: 海事記念館管理係( 0153-52-4040 )

## 「ふるさと教室」を開催します

海事記念館文化財係では、郷土の歴史や町内にある文化財に触れてもらうため、「ふるさと教室」を開催します。当日は、町内にある「お供山」にのぼり、厚岸町の天然記念物に指定されている「逆水松」や同じく町の史跡に指定されている「チャシ跡」、国指定の史跡「国泰寺跡」などを訪れる予定です。お気軽にご参加下さい(事前申し込み制・参加料無料)。

日 時：10月20日(土)午前9:00から12:00まで

集合場所：厚岸町海事記念館

定 員：15人(申し込み多数の場合は抽選となります)

申し込み締め切り：10月16日(火)

申し込み・問い合わせ先：海事記念館文化財係(0153-52-4040)

## 古文書に親しんでみませんか

海事記念館文化財係では、「古文書教室」を開催します。当日は、釧路短期大学教授佐藤宥紹氏を講師に、国の重要文化財に指定されている「蝦夷三官寺国泰寺関係資料」をもとにした講義を予定しています。なお、当事業は道民カレッジ連携講座にもなっています。

日 時：10月27日(土)午前10:00から12:00まで

集合場所：厚岸町海事記念館

講 師：釧路短期大学教授 佐藤宥紹氏

定 員：30人(申し込み多数の場合は抽選となります)

申し込み締め切り：10月24日(水)

申し込み・問い合わせ先：海事記念館文化財係(0153-52-4040)

## ちょっと長めの編集後記

先日、厚岸町教育委員会生涯学習係主催の高齢者生きがい大学で明治・大正・昭和の写真をもとに厚岸の歴史についてお話しさせていただく機会がありました。実はその際、会場のみなさんにある願いをしました。それは、もし、昔の写真、もちろん、明治、大正に限らず、昭和初期や戦後の写真があったらご一報下さいというものでした。すると、なんと、後日、待ちに待った電話が海事記念館に。「うちに古い写真があるんだけど、もしよければ見に来ないかい」というものでした。「今から行きます」と伝え、メモ帳とデジカメを握りしめ、その方のお宅へ。その方は町内の松葉町にお住まいの方で、白黒写真を二枚用意してくれていました。その中の一枚には、昭和12、13年頃の松葉町通りの様子が鮮明に写しだされておりました。背景にはお供山が、そして道沿いには細い川が流れ、その上には各家に入るための橋が架けられておりました。写真はお借りして、画像をスキャナーでパソコンに取り込み、再びご連絡下さった方へお戻ししました。写真は様々な情報を私たちに語りかけてくれます。この写真についても機会を見つけてご紹介できればと考えています。このように写真をデジタル画像として保存することにより、その中に写しだされた厚岸の街並みや風景だけではなく、その“記憶”をも保存することにつながるのではないのでしょうか。そして、みなさんがお持ちの写真をもとに厚岸の歴史をお伝えする

ことができれば、もう少し歴史や文化財が身近なものになるのではないかと思います。

「厚岸町海事記念館通信」第6号 2007.10.発行

【編集・発行】

厚岸町海事記念館

〒088-1128 北海道厚岸郡厚岸町字港町50番地1

Tel/Fax (0153)52-4040

(文責：車塚)